

# 若者世代・子育て世代アンケート 調査結果に基づく分析

期間：R6.4.17～.5.8

対象：満18歳以上40歳未満の男女

発送：3,000人

回収： 769人 (25.6%)

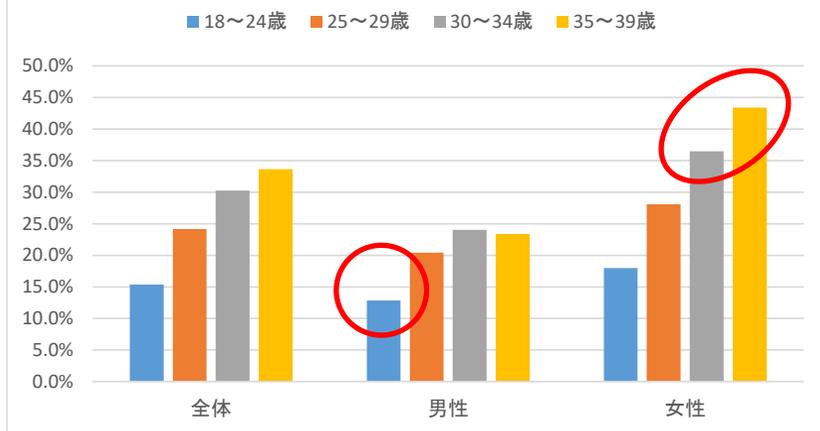
# アンケート回答者の傾向

- アンケートの回答率は、全体で25.6%。女性が高く、年齢が上がるにつれ、回答率が高くなる傾向にある。
- 特に30代女性が高く、18～24歳の男性が低い。
- 区別では、高田区、直江津、柿崎区が高く、特に、高田区女性、直江津区女性、大島区男性、柿崎区女性が高い。

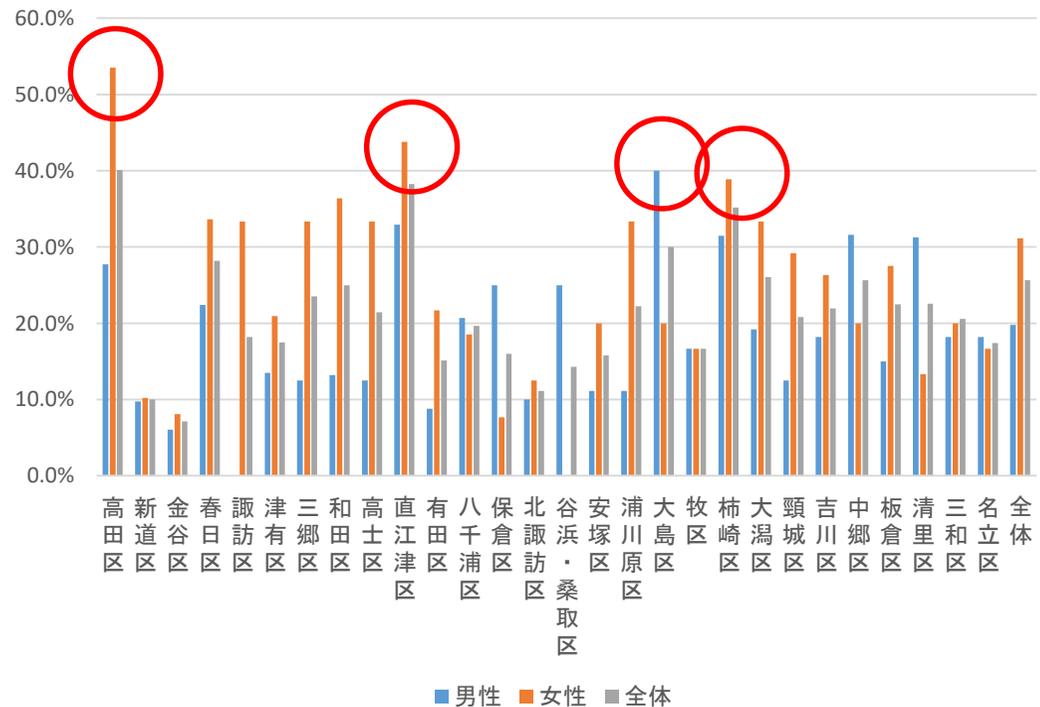
### 性別回答率

	回答数	発送数	回答率
男性	297	1,500	19.8%
女性	467	1,500	31.1%
無回答	5	0	
全体	769	3,000	25.6%

### 年齢別回答率



### 区別回答率

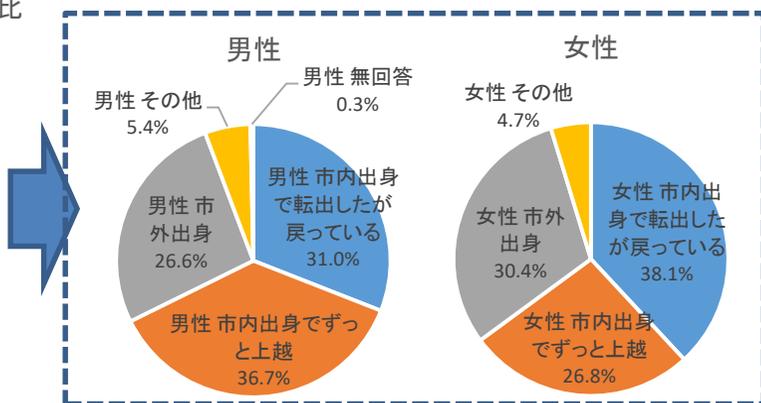
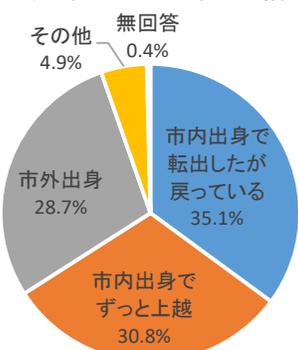


※発送数に対する回答率

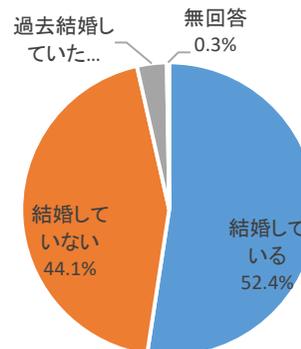
# 回答から見える若者世代の実態

- 若者世代は、Uターン層が約35%と最も多く、次いでずっと市内、Iターンが同割合で約3割。
- 既婚と未婚の割合は共に約5割だが、令和元年度調査と比較すると、既婚の割合が約7%減、未婚の割合が約8%増となっており、**未婚の割合が増えている**。
- 世帯構成は、子供と同居の核家族が約35%と最も多い。
- 結婚経験者の子どもの数は、2人が最も多い約39%。次いで1人が約27%。約8割が子どもを産んでいる。
- 就労の状況は、正規雇用者が約64%と最も多く、次いで非正規雇用者の約18%となる。

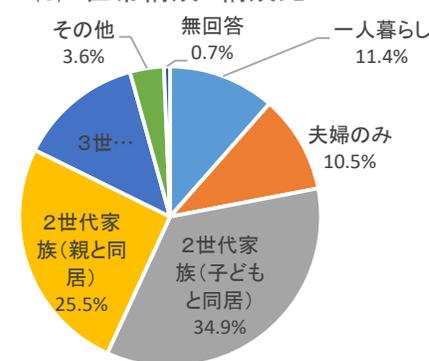
(4) 上越市とのかかわり 構成比



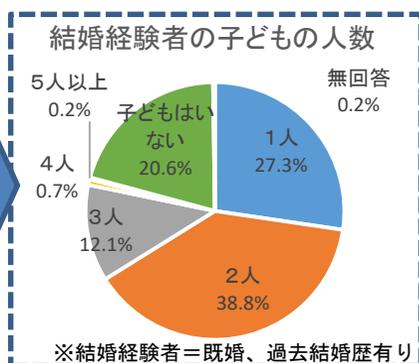
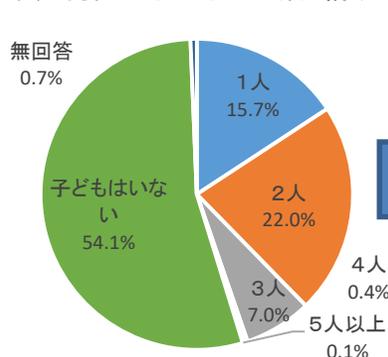
(5) 結婚 構成比



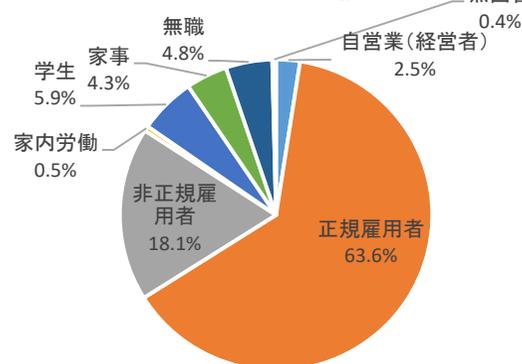
(6) 世帯構成 構成比



(7) 現在の子ども的人数 構成比



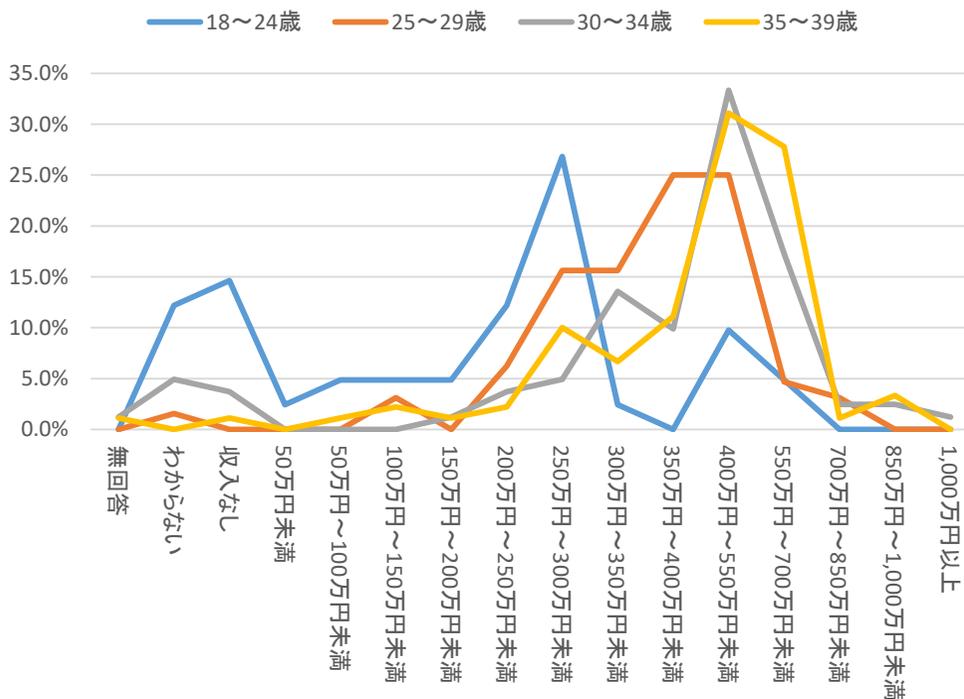
(9) 就労の状況 構成比



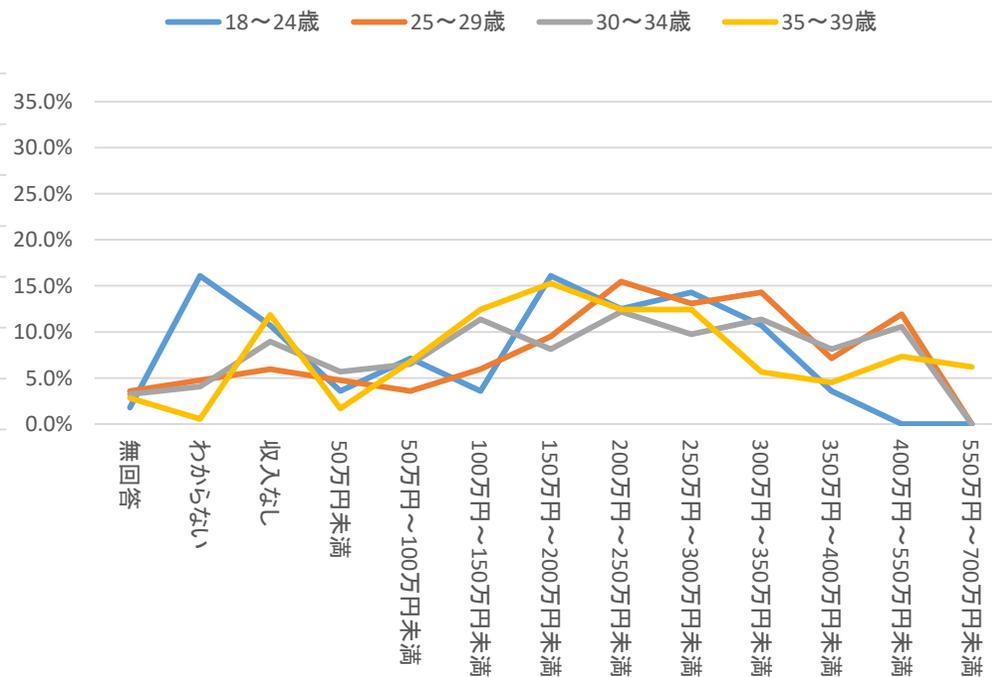
# 回答から見える若者世代の実態（年収）

- 男性の年収（学生を除く）は、18歳～20代前半で250万円～300万円前後、20代後半で350万円～400万円前後、30代で400万円～550万円前後となっている。
- 女性の年収（学生を除く）は、18歳～20代前半で150万円～200万円が最も多く、20代後半・30代前半は多様な状況であり、30代後半は150万円が最も多いが、収入なしも多い状況である。
- 令和元年度調査と比較し、男女共に、全体的に収入が増加傾向である。  
（0～200万円未満：▲5.0%、200～400万円未満：▲1.4%、400万円以上：+5.3%）

### 世代別の年収（男性）



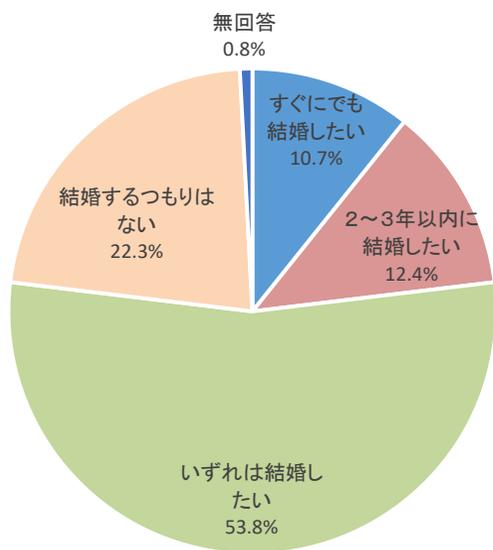
### 世代別の年収割合（女性）



# 「結婚」に関する回答（結婚していない人の結婚の意識）

- 現在結婚していない人のうち、結婚したいと答えている人は約77%で、令和元年度調査と比較して約6%減少しており、特に「2～3年以内には結婚したい」人の割合は、全年代で減少している。
- 年代別に見ると、24歳以下の「いずれは結婚したい」が約7%増加しており、18～19歳を調査対象に追加したことが要因と推察する。
- このほか、30代前半の「結婚するつもりはない」が約17%増加している。

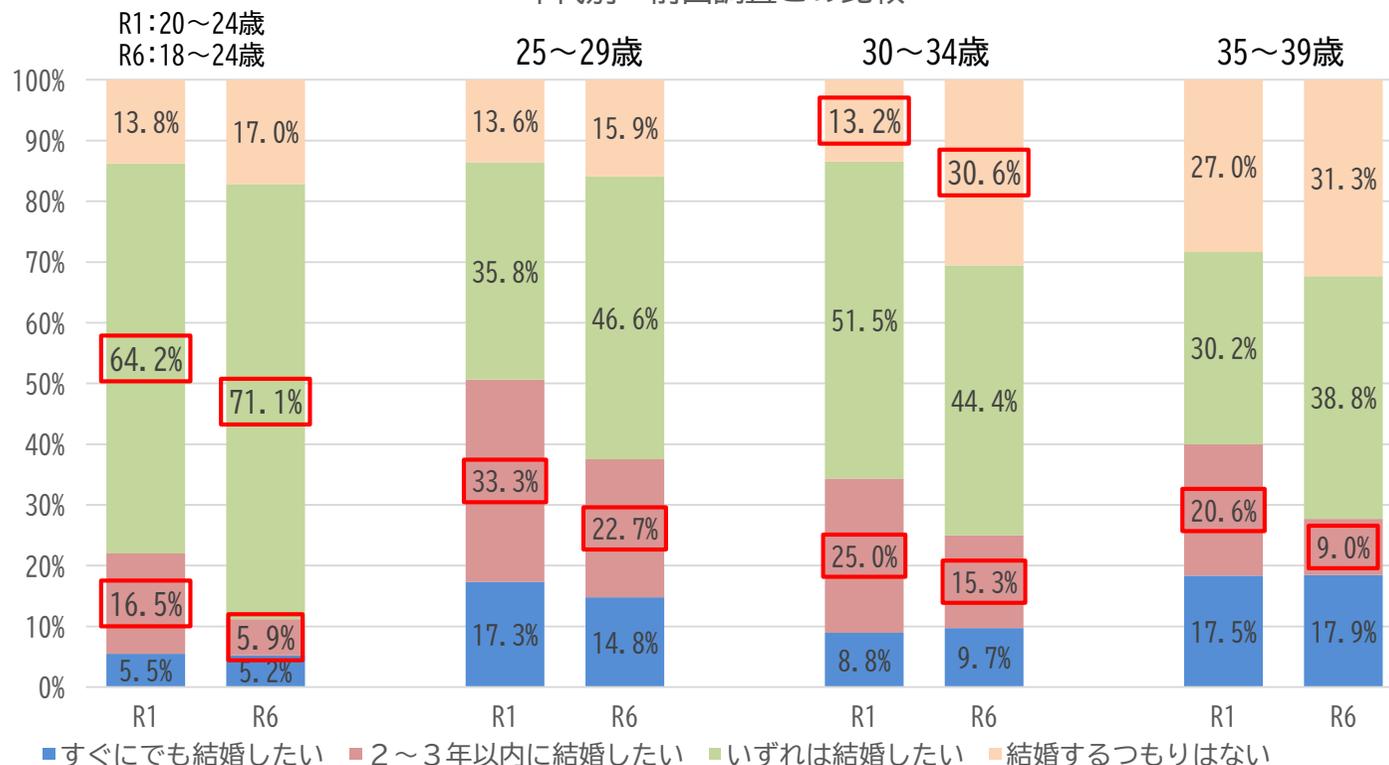
問1 将来結婚したいと考えているか



令和元年度調査との比較

- ・ すぐにでも ▲約1%
- ・ 2～3年以内 ▲約11%
- ・ いずれは +約6%
- ・ つもりはない +約6%

年代別・前回調査との比較

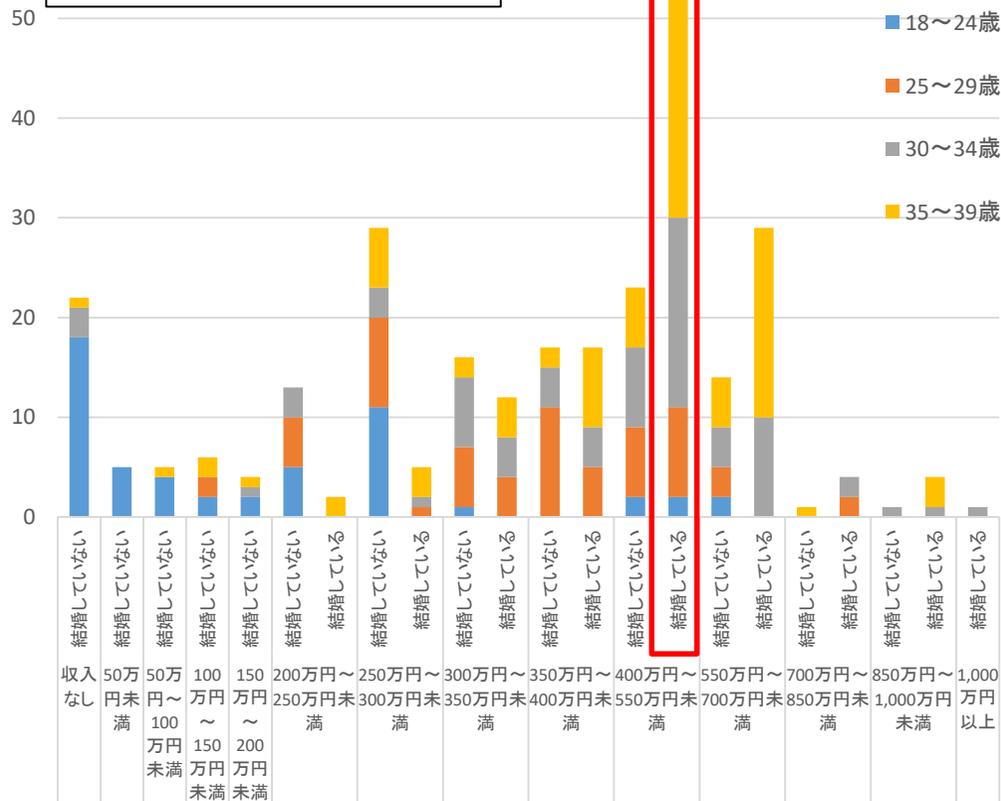


※「結婚していた」と「結婚していない」の人数に対する回答率、無回答は除く。

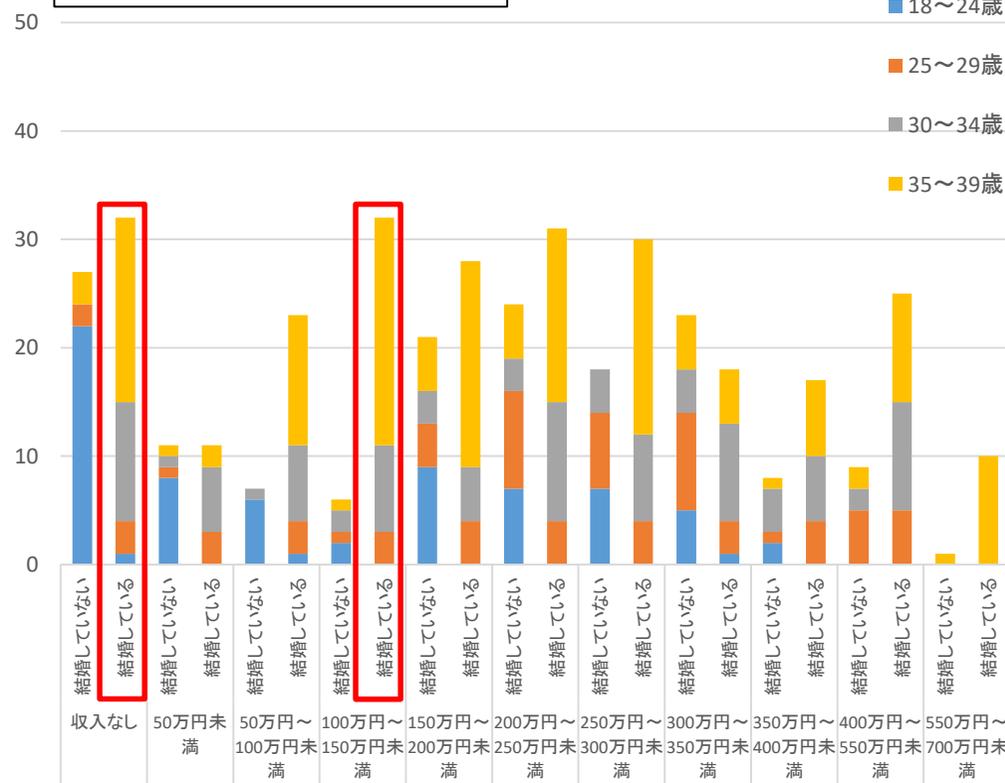
# 「結婚」に関する回答（年収と結婚・子どもの関係）

- 男性は、年収が多いほど結婚してる割合が高い。
- 一方で女性は、収入なし～150万円未満の収入帯において結婚している人の割合が多く、その収入帯では子どもがいる割合も多く、結婚や出産後に退職する人や、扶養の範囲内で働く人が一定数いることが推察される。

年収と結婚の関係（男性回答数）



年収と結婚の関係（女性回答数）

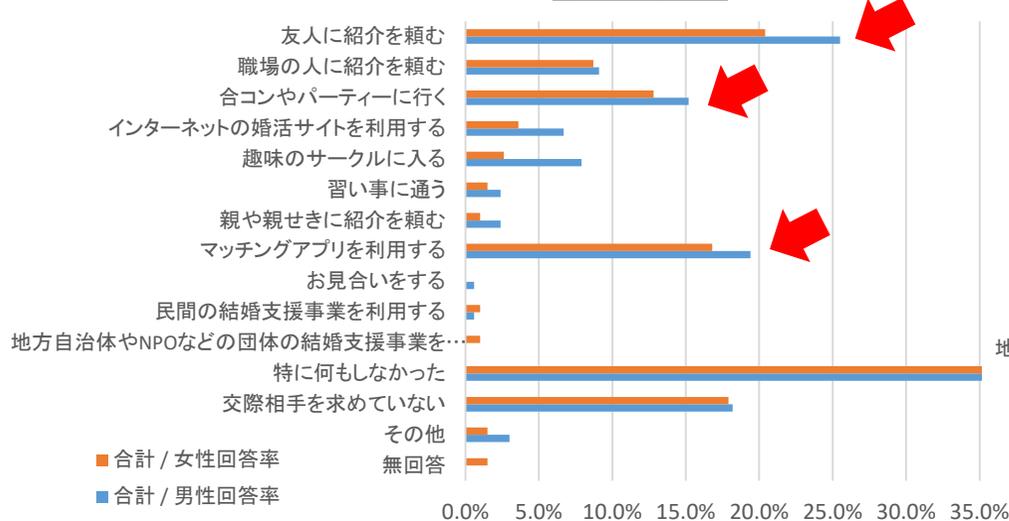


# 「結婚」に関する回答（婚活の意識）

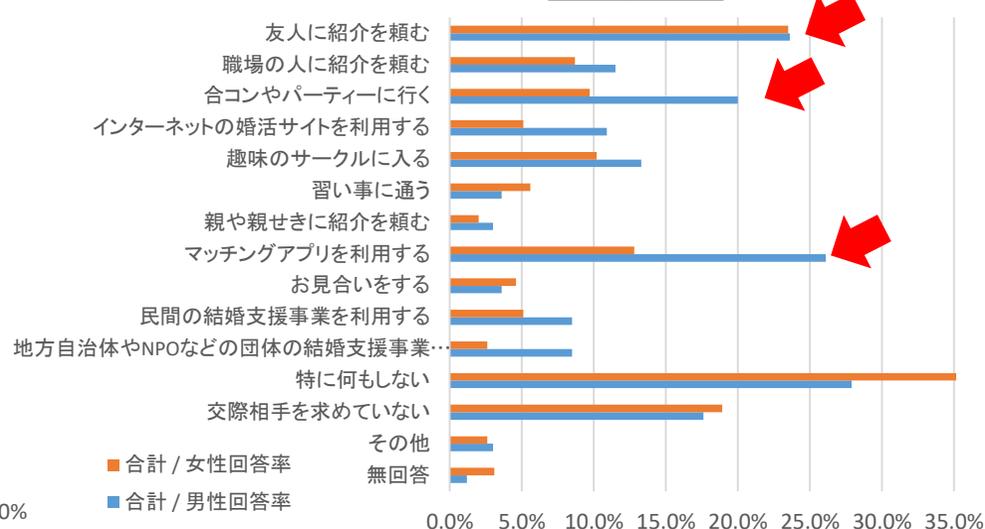
○ 出会いを求めるために過去に行ったこと、今後行いたいこと、いずれも、マッチングアプリの利用が令和元年度調査と比較して約10%増加している。

○ 友人の紹介や合コン・パーティも依然として高い割合にはあるが、減少傾向にある。

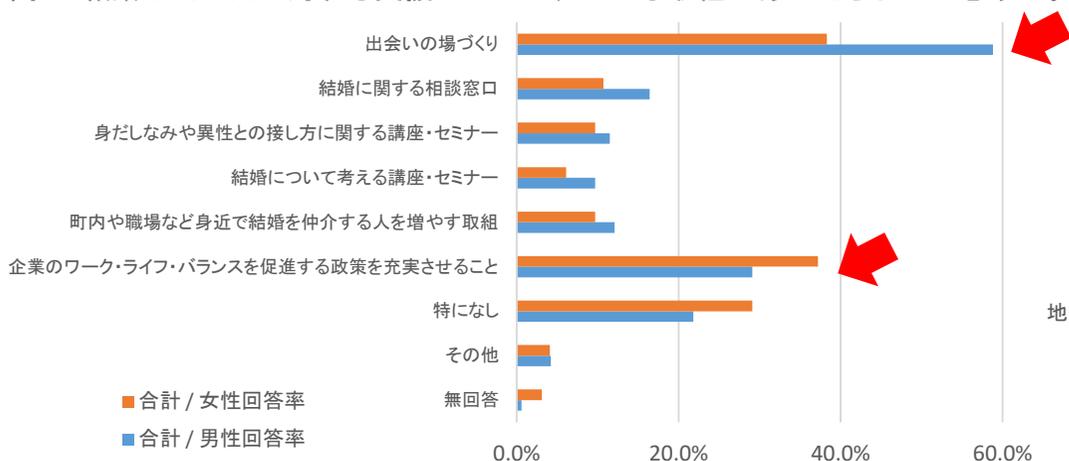
問4 出会いを求めるために過去に行ったこと



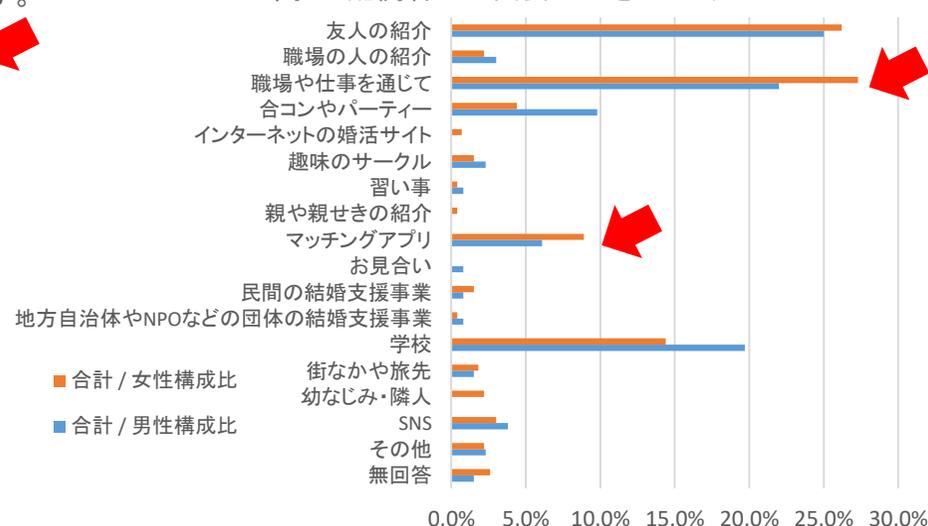
問5 出会いを求めるために今後行いたいこと



問6 結婚したい人に対する支援について、どんな取組があったらよいと思うか。



問7 配偶者との出会いのきっかけ

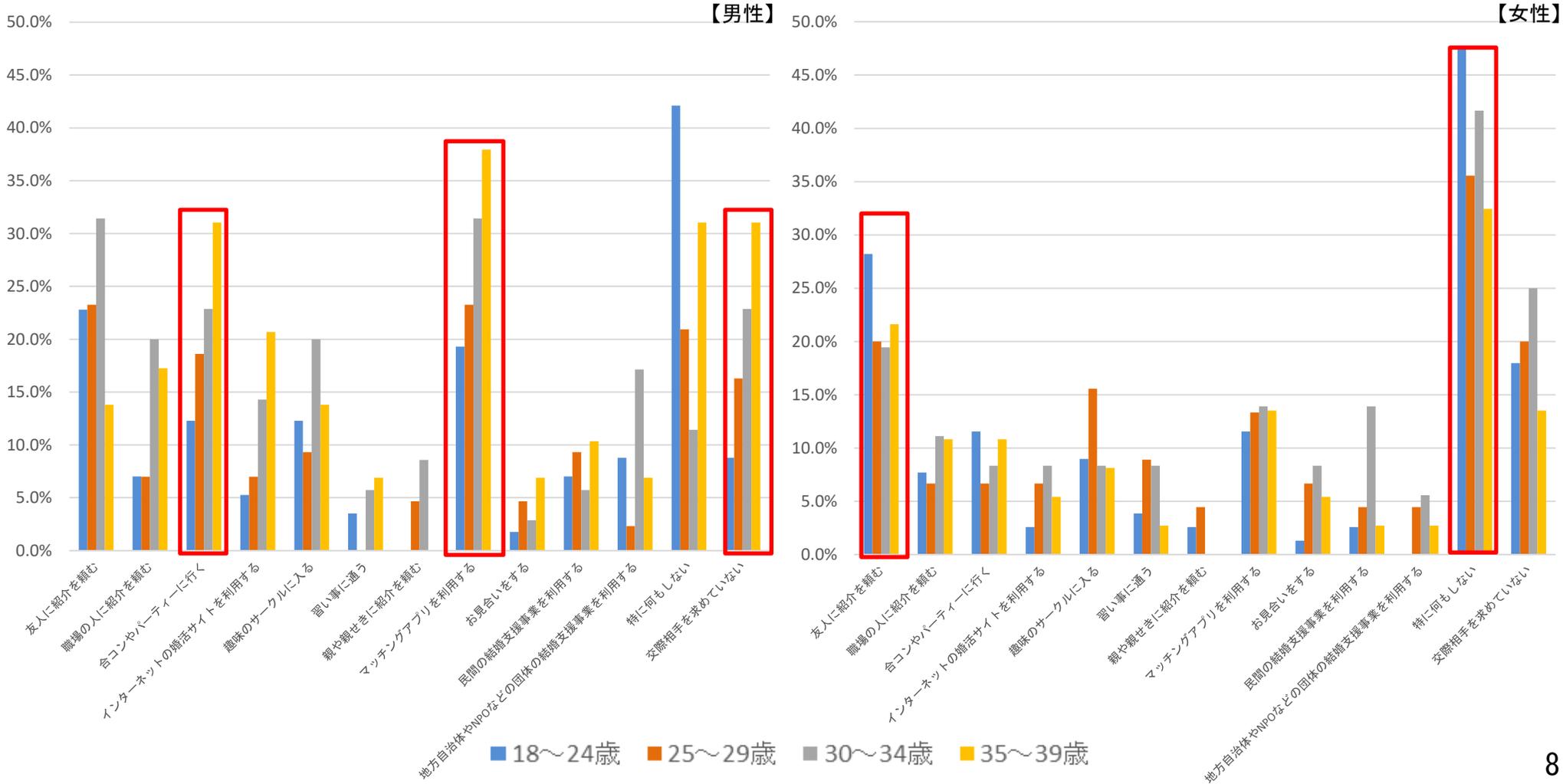


※現在結婚していない人（364人）に対する回答率

# 「結婚」に関する回答（婚活の意識（性別・年代））

- 今後行いたいことは、男性は30代後半になるにつれて「マッチングアプリ」や「合コンやパーティに行く」の割合が高まる一方で、「交際相手を求めている」の割合も増加している。
- 女性は、各年代で「特に何もしない」の割合が最も多く、次いで「友人に紹介を頼む」の割合が多い。また20代後半では、「趣味のサークルに入る」の割合が多い

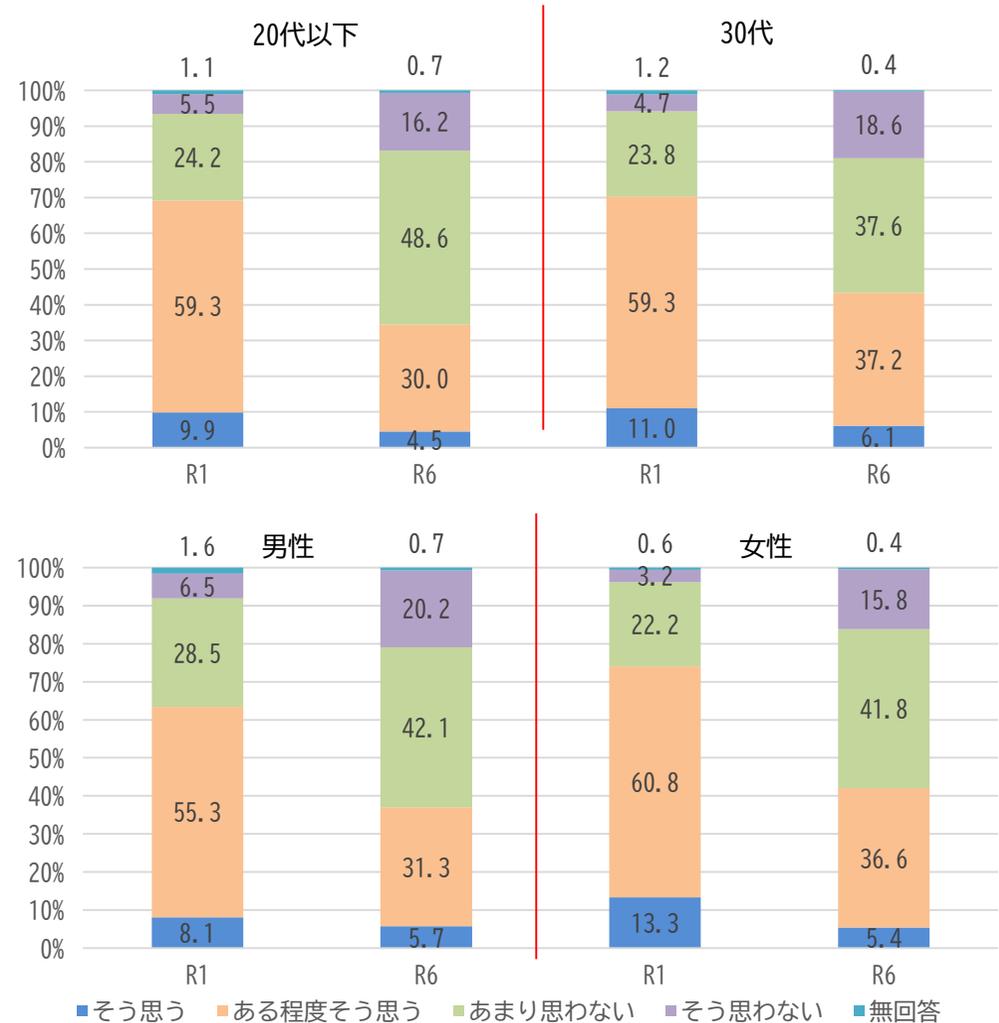
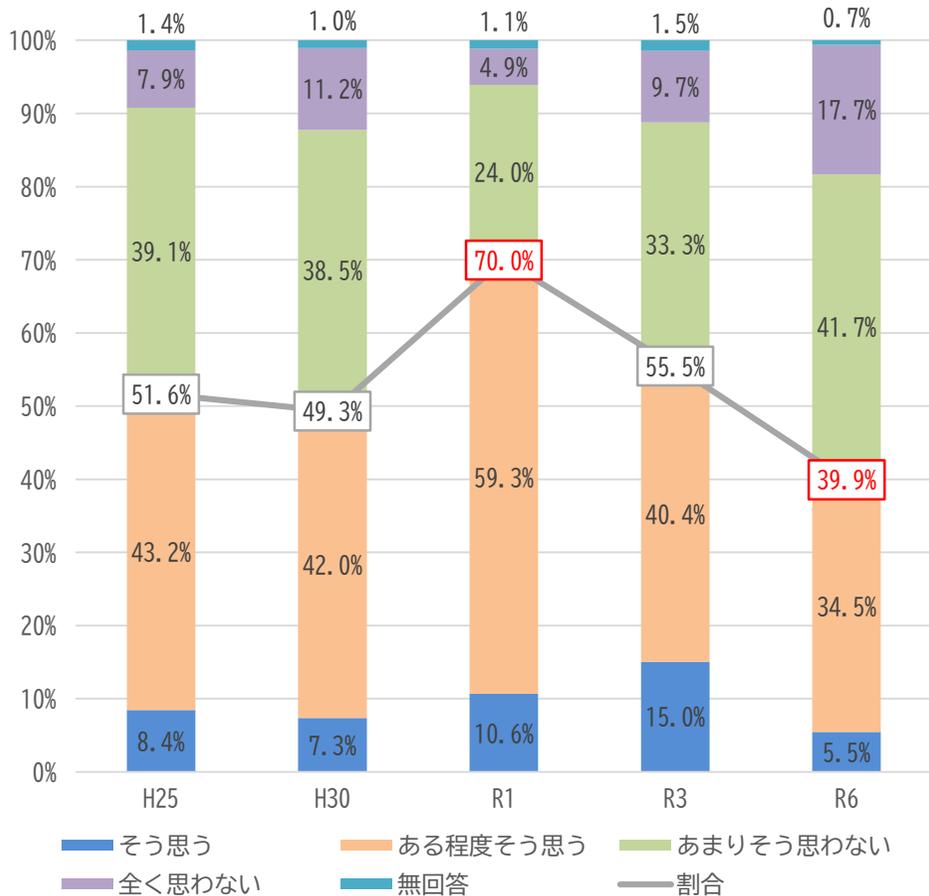
問5 出合いを求めるために今後行いたいこと（無回答、その他を除く）



# 「出産・子育て」に関する回答 (出産や子育てがしやすいと感じる割合)

- 出産や子育てがしやすいと思う割合は、令和元年度調査と比較して約30%減少しており、全年代、性別で「そう思う」「ある程度そう思う」が大きく減少している。
- 出産や子育てに関して不安に思っていることや取組を強化してほしいこととして、経済的な内容が最も多い。

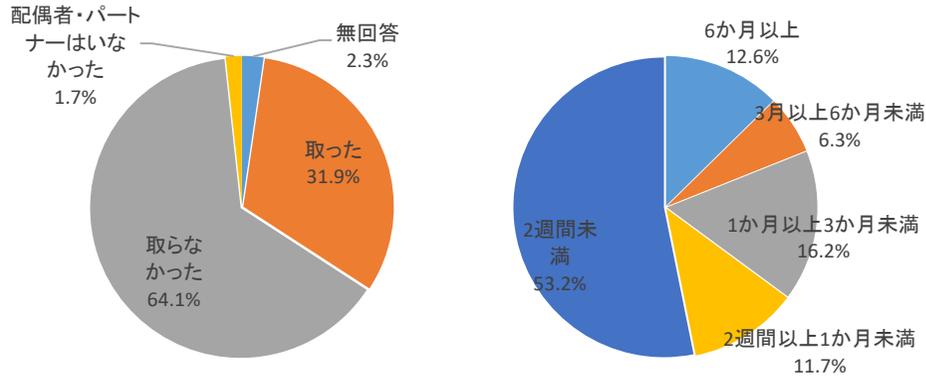
問10 現在の生活実態・生活実感として、出産や子育てがしやすいと思いますか。



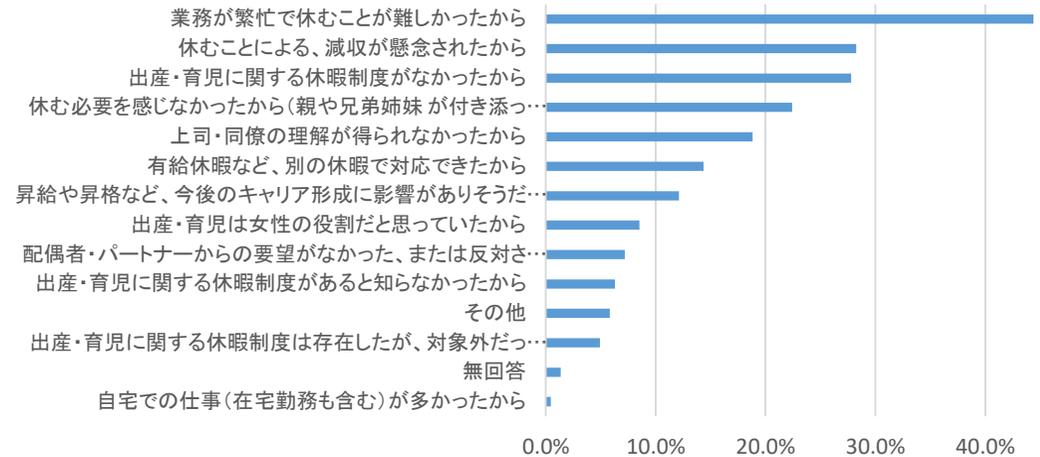
# 「子育て」に関する回答 (男性の出産・育児に関する休暇の取得状況)

- **男性の育児休暇取得率は31.9%**で、令和5年度の新潟県内の民間企業の取得割合33.7%を下回っている。
- 取得期間について、実際の取得は「2週間未満」が半数以上と最も多かった一方で、取得を希望する期間は「2週間～3か月未満」が半数以上あり、希望と実態とのギャップが確認できた。

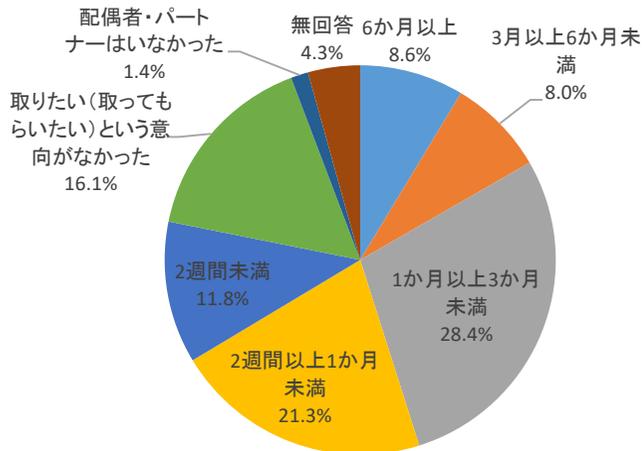
問19 男性の育児休暇の取得率 問20 男性の育児休暇の取得期間



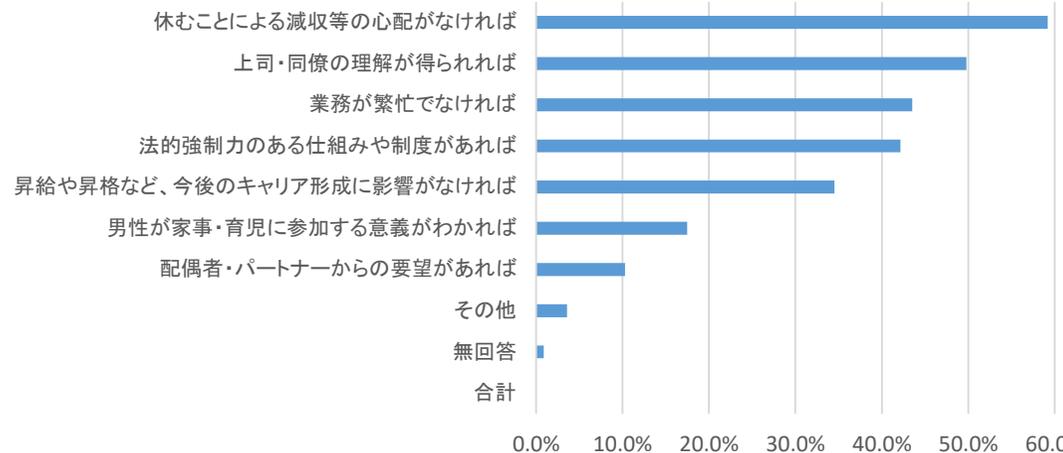
問21 男性が育児休暇を取得しなかった理由(複数選択)



問23 男性の育児休暇について、本当であれば、どのくらいの期間、取得したかったか(してほしかったか)



問22 どうすれば男性が育児休暇を取得できると思うか(複数選択)

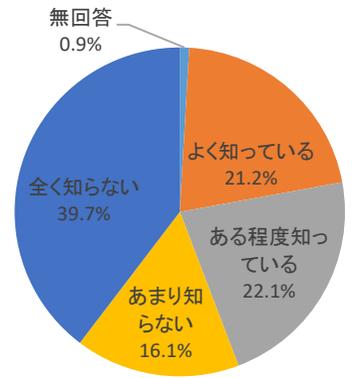


※一番下のお子さんが生まれたときについての回答

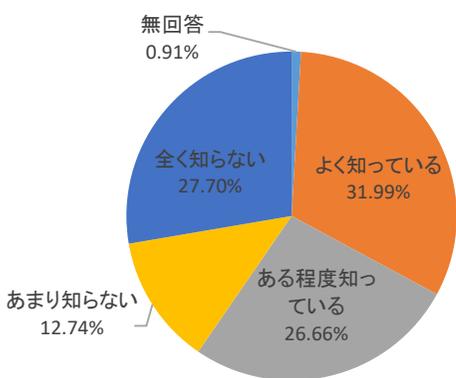
# 「出産・子育て」に関する回答（子育て支援等施策の評価）

- 子育て支援等施策は、全体的に概ね高い評価を受けていたが、子ども医療費助成と保育料軽減等については、令和元年度調査から約1割減となっている。
- 特に保育料の軽減等は、制度自体の認知度が低くなっている。

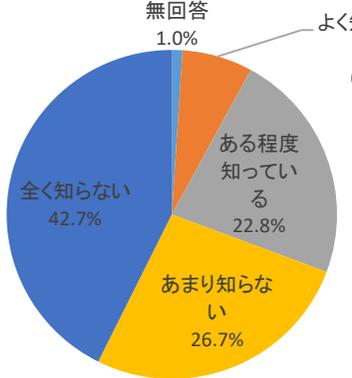
問14① 妊産婦医療費無償化の認知度



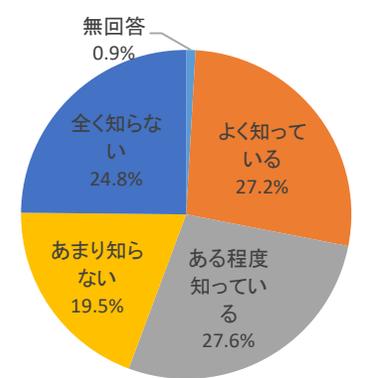
問24① 子ども医療費助成の認知度



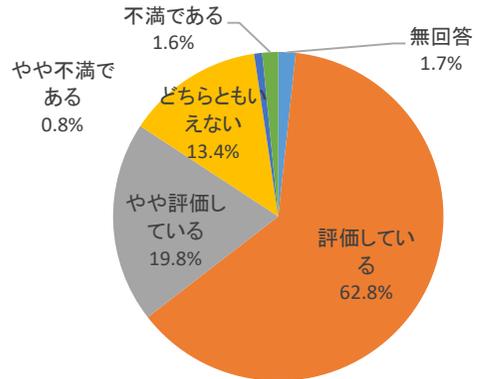
問25① 保育料軽減等の認知度



問26① 放課後児童クラブの認知度

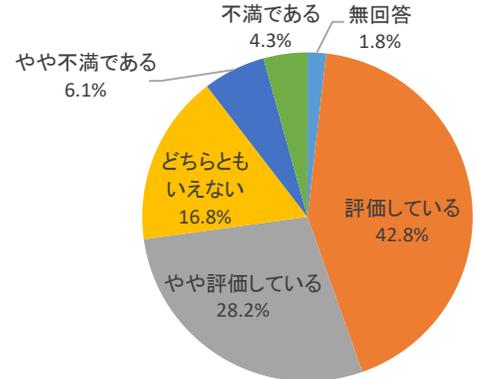


問14② 妊産婦医療費無償化の評価



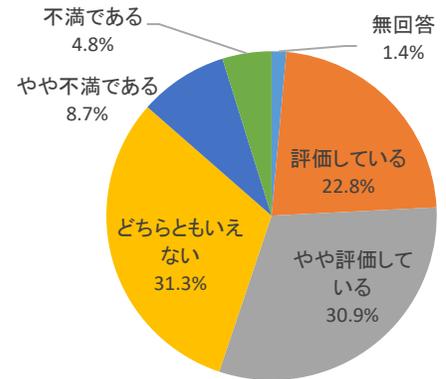
約8割が評価

問24② 子ども医療費助成の評価



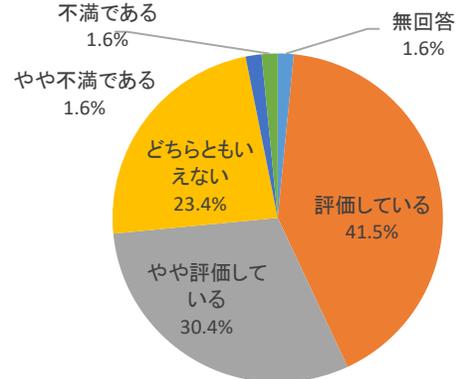
約7割が評価  
(令和元年度調査から1割減)

問25② 保育料軽減等の評価



約6割が評価  
(令和元年度調査から1割減)

問26② 放課後児童クラブの評価



約7割が評価

# 「出産・子育て」に関する回答 (支援等施策の主な不満の声と総合的な評価)

- 全体的に不満の件数は少ない（令和元年度調査と同程度）。
- 不満の声のほとんどが、更なる支援拡大を求める声となっている。
- 総合的には、約6割が市の子育て支援等施策に評価をしており、不満は極めて少ないことが分かった。

## 妊産婦医療費の無料化

不満の理由	件数
更なる支援拡大	5
過剰・税金の使途	3
制度の実施が遅い	2
その他	2
合計	12

(令和元年度調査から11件減)

## 子ども医療費助成

不満の理由	件数
更なる支援拡大	33
その他	2
合計	35

(令和元年度調査から19件増)

33件の内、半数近くの人が、支援が手厚い他市の制度と比較し、同様の内容への支援拡充を求める声であった。

## 保育料の軽減

不満の理由	件数
保育料の高さ・所得別保育料	17
更なる支援拡大	12
合計	24

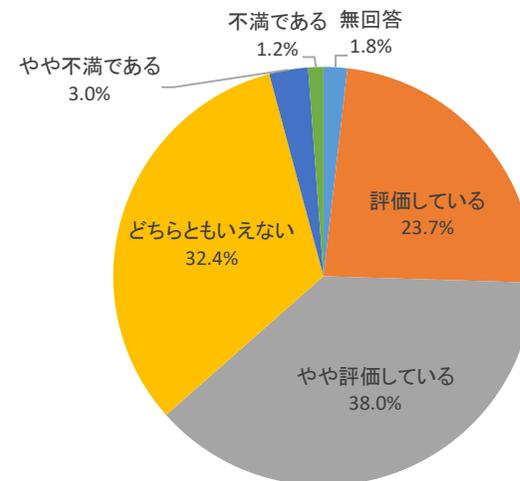
(令和元年度調査と同数)

## 放課後児童クラブの全校整備

不満の理由	件数
サービス	5
その他	4
料金の高さ・利用条件	3
合計	12

(令和元年度調査から8件減)

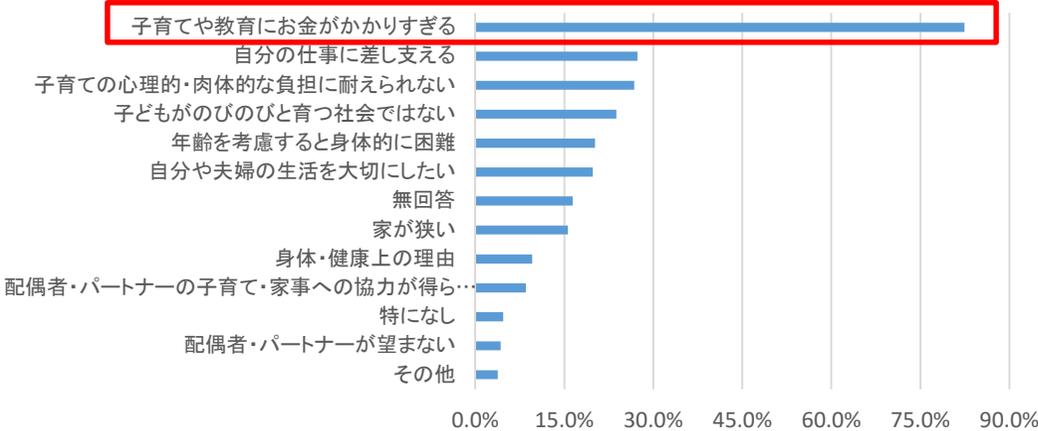
問27 妊娠・出産・子育て支援の取組の総合評価



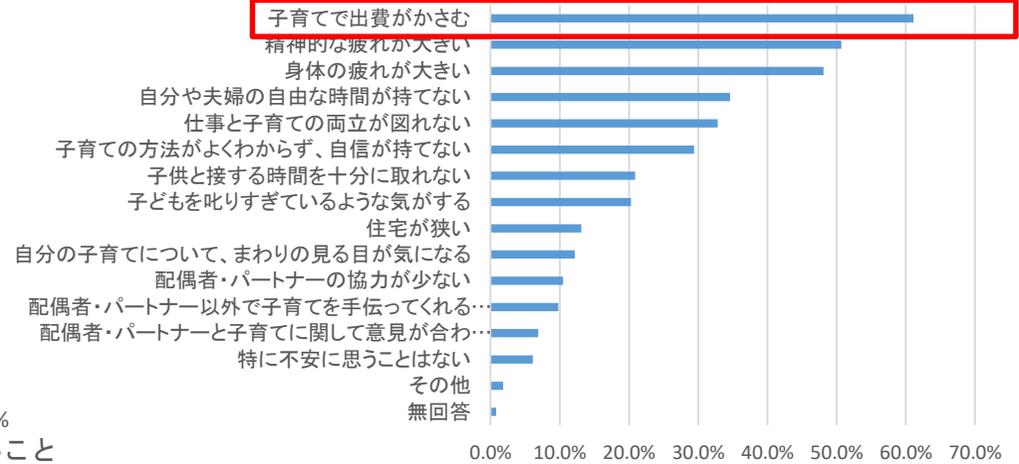
約6割が評価

# その他の結婚・出産・子育て関連の回答

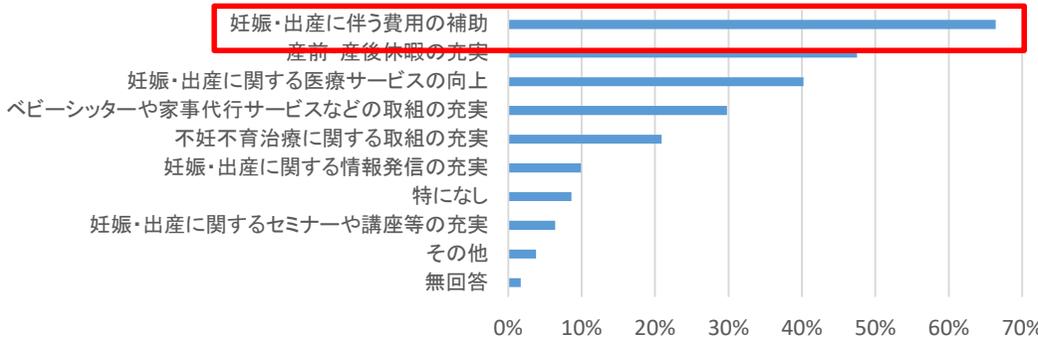
問13 理想とする子どもをもつ上で問題になると感じている（いた）こと



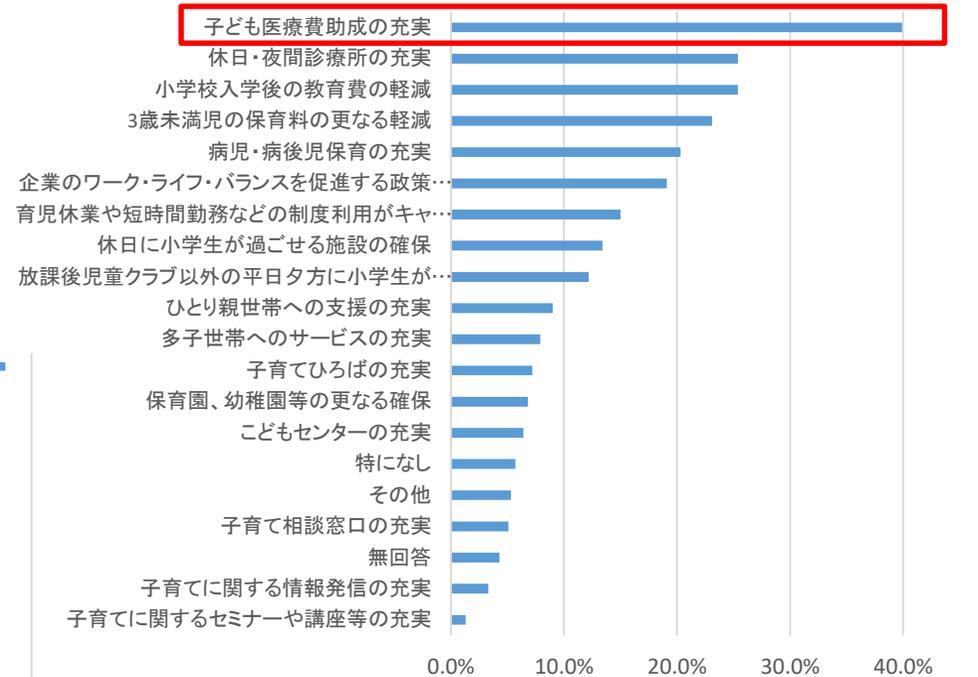
問17 子育てをする上で、現在、特に不安に思っていることや悩んでいること



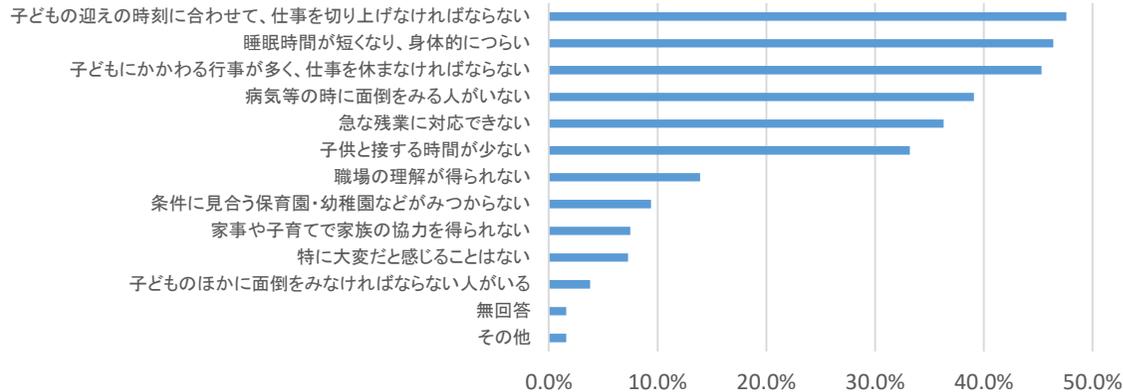
問16 行政や民間団体等による妊娠・出産支援について、取組を強化してほしいこと



問28 子育て環境の充実のために、今後さらに取組を強化してほしいこと



問18 仕事と子育てを両立する上で大変だと感じること

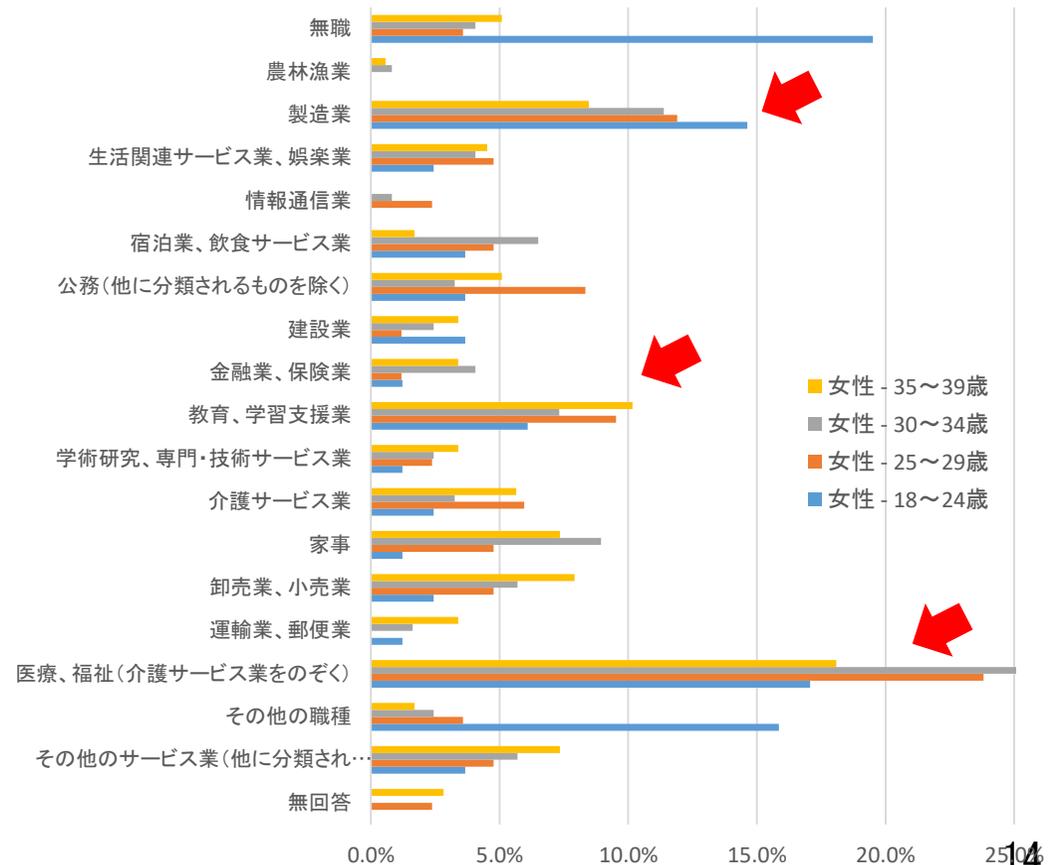
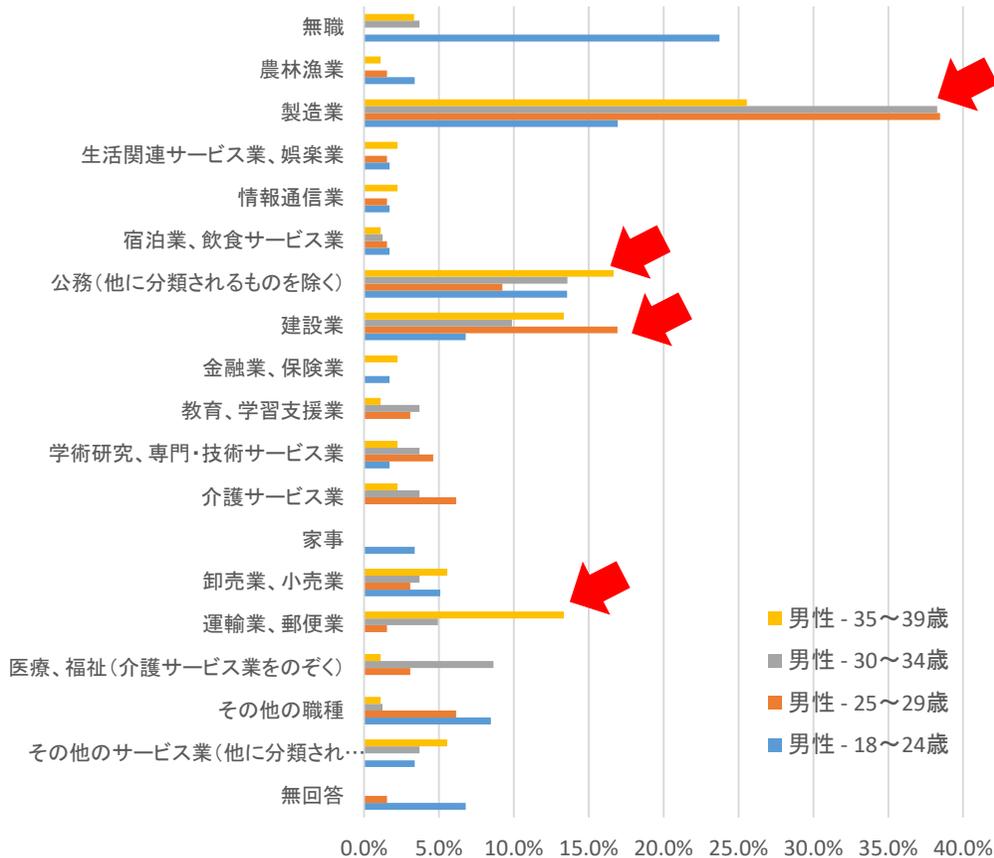


# 「しごと」に関する回答（就労の産業）

- 男性の就労の産業は、「製造業」が最も多く、次いで「公務」と「建設業」が多い。  
また、30代後半の「運送業・郵便業」も高く推移している。
- 女性の就労の産業は、「医療・福祉」が最も多く、次いで「製造業」と「教育・学習支援業」が多い。

問31 現在の就労の産業（男性）

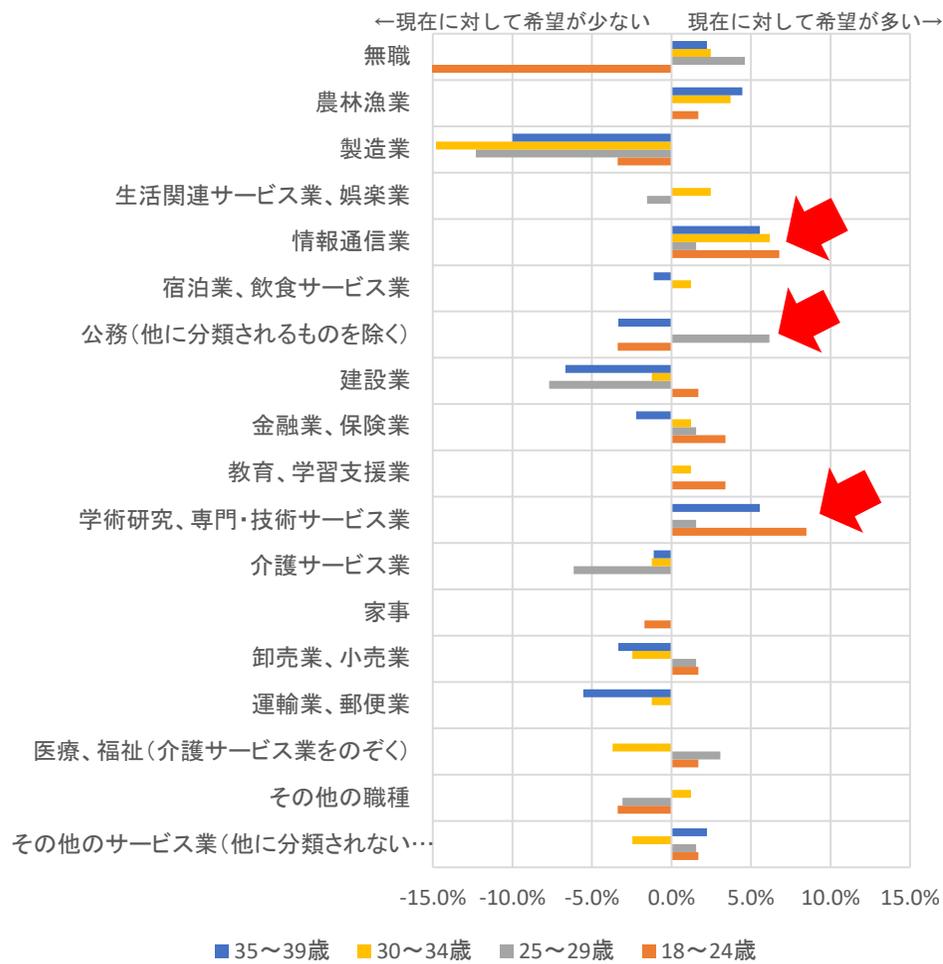
問31 現在の就労の産業（女性）



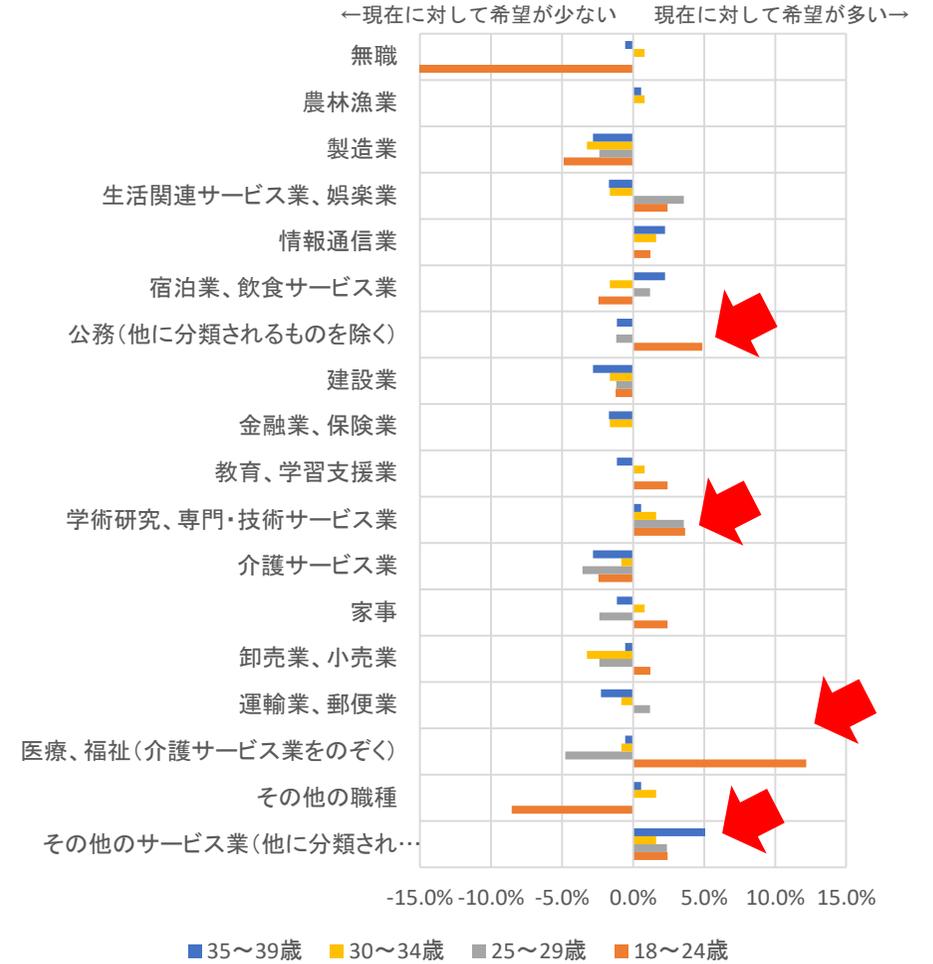
# 「しごと」に関する回答（現在の職種と希望職種の比較）

- 現在の就労に対して希望が多いのは、男性では「情報通信業」、「学術研究、専門・技術サービス業」であり、20代後半では「公務」が最も多くなっている。
- 女性では「学術研究、専門・技術サービス業」、「その他のサービス業」の希望が多く、18歳～24歳では「医療・福祉」と「公務」が最も多くなっている。

現在の職種と希望職種の比較(男性)



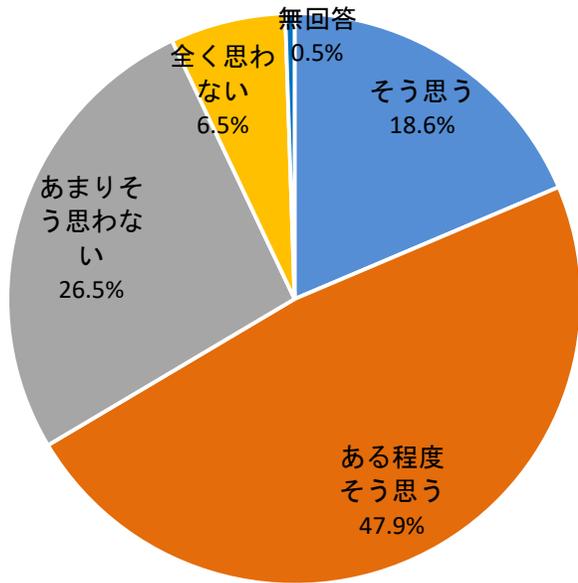
現在の職種と希望職種の比較(女性)



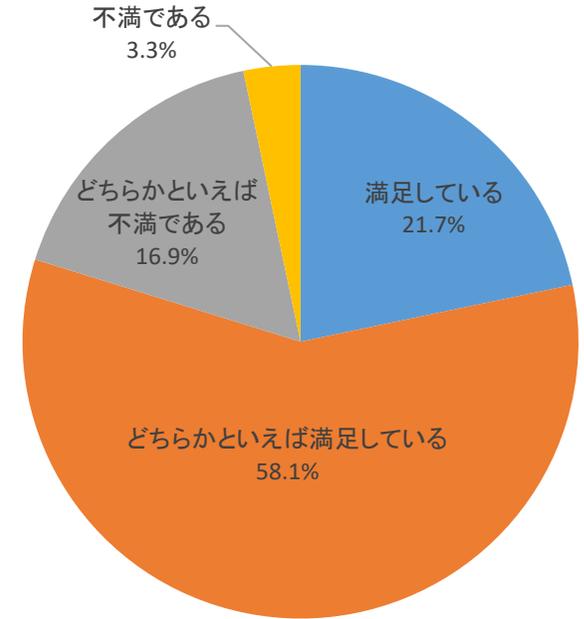
# 「しごと」に関する回答（働く場、しごとの満足度について）

- 「働く場が整っている」と思っている人が約66%、令和元年度調査と比較して約24%増加した。男性で「働く場が整っている」と思っている人は約69%であり、約34%増加した。
- 現在の「しごと」について、全体的に見て満足していると答えた人は約80%となっている。令和元年度調査と比較して男性で約5%増加した。

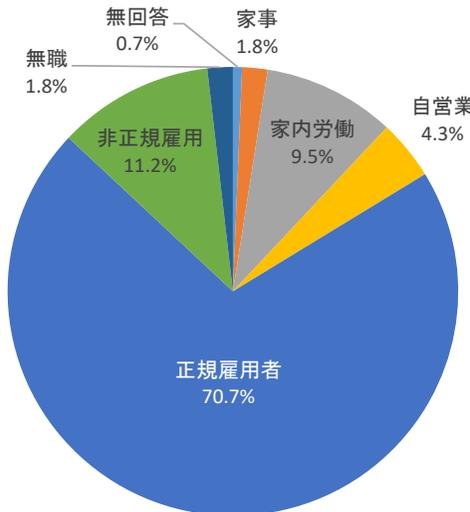
問29 現在の生活実態・生活実感として、働く場が整っていると思うか



問34 現在の「しごと」について、全体的に見て満足しているか

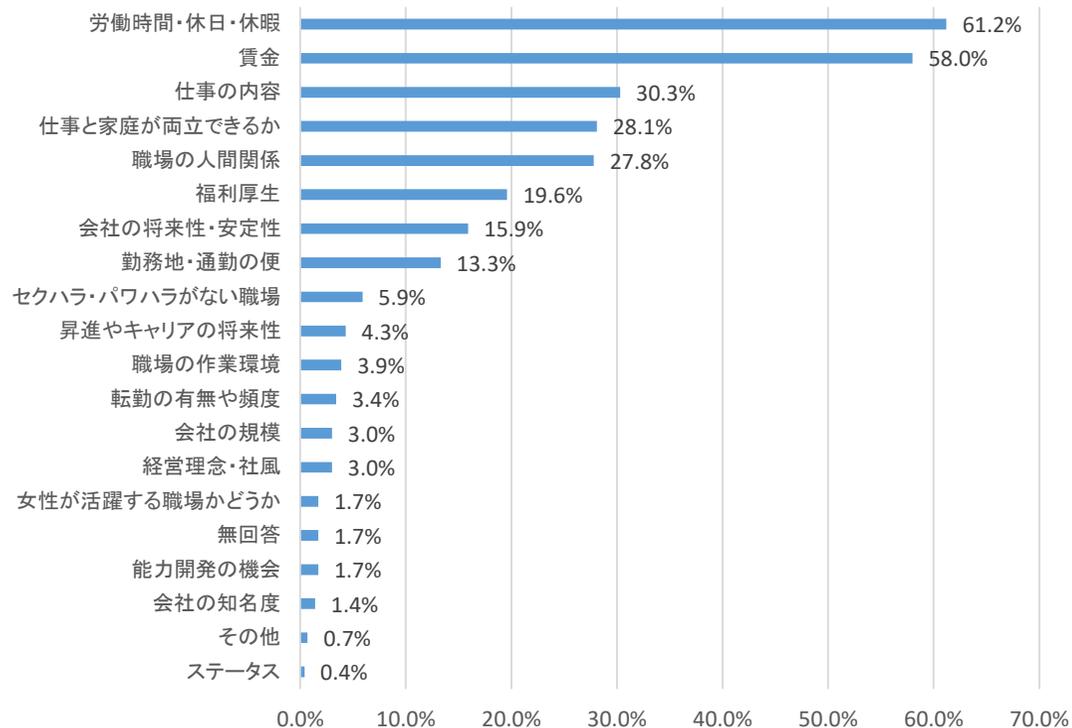


問30 最も希望する就労の形態

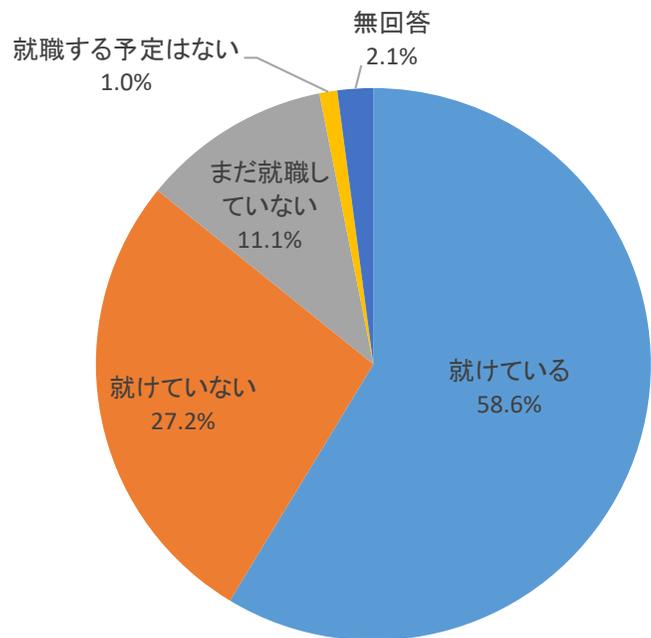


# その他の「しごと」関連の回答

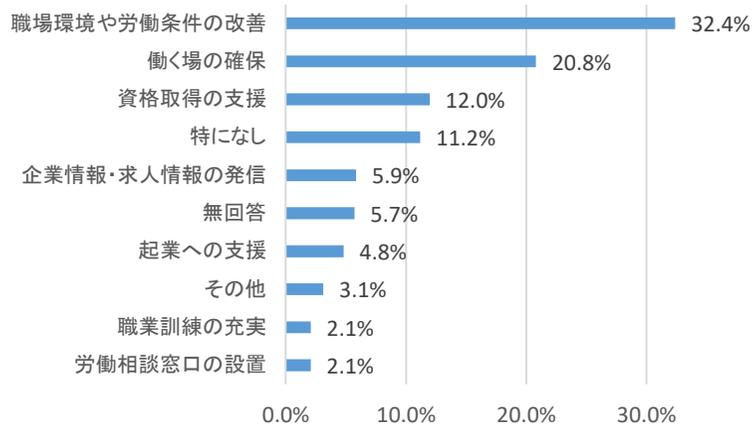
問32 「しごと」を選ぶ上で重視する条件（3つまで）



問33 現在、最も希望する業種・職種に就けているか



問37 「しごと」に関して、行政や民間団体等にどんな取組をのぞみますか

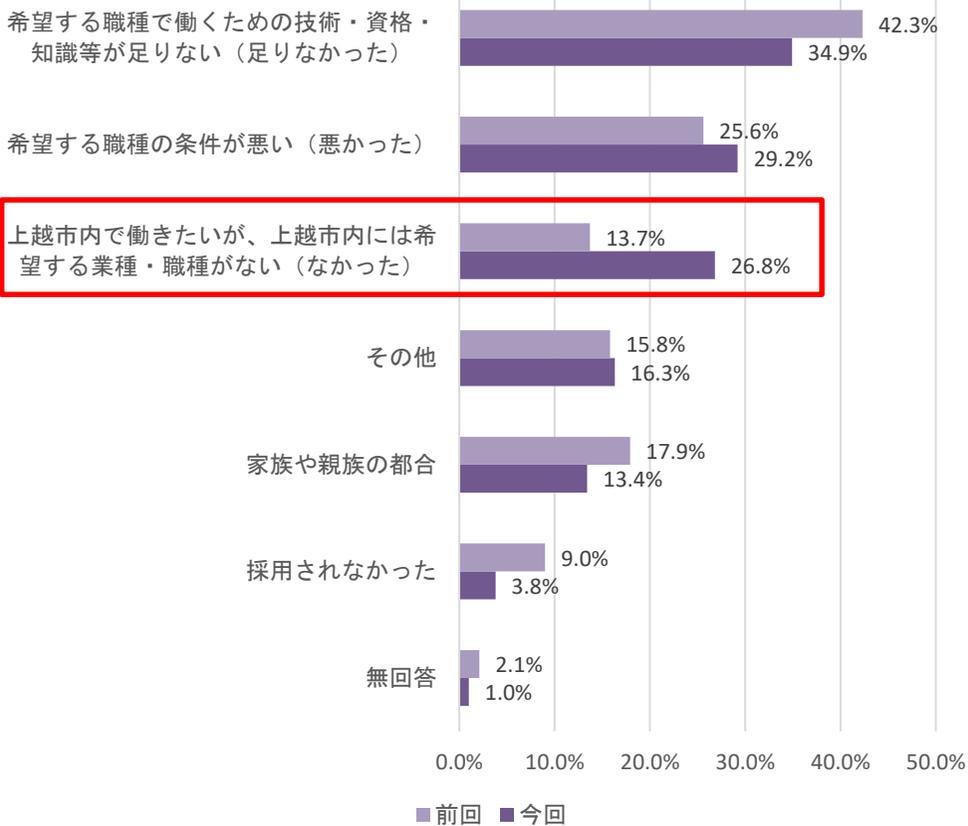


# その他の「しごと」関連の回答

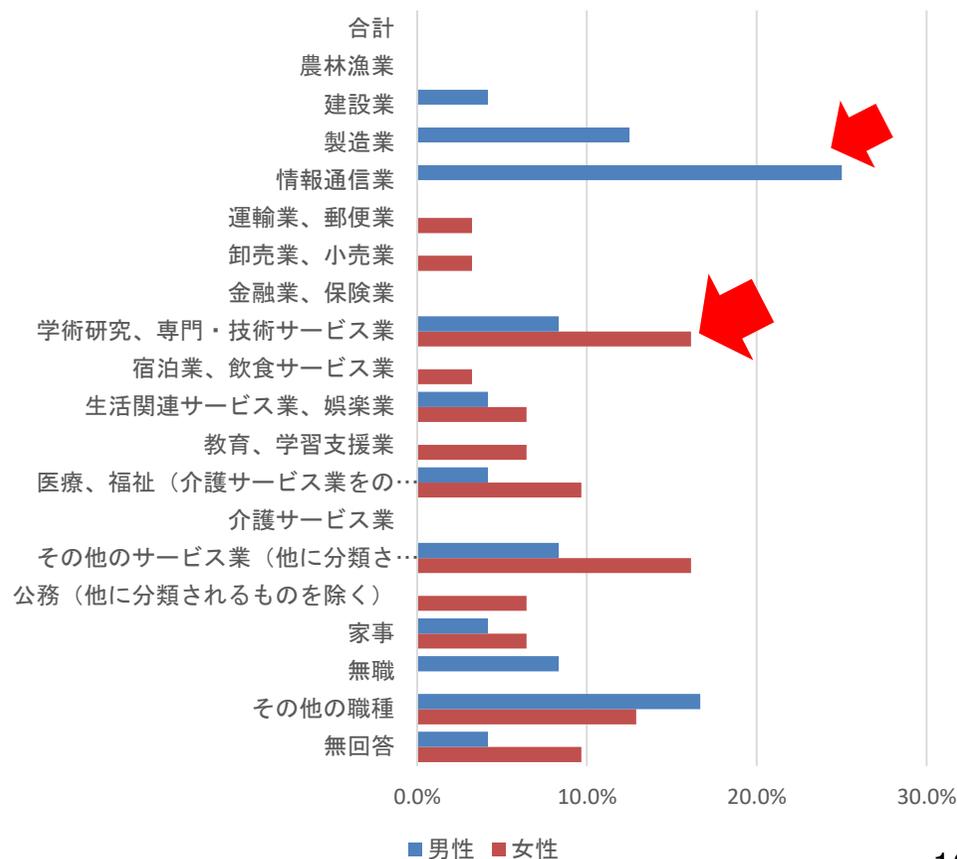
- 最も希望する業種・職種に就けていない理由として「上越市内で働きたいが、上越市内には希望する業種・職種がない（なかった）」の回答が前回比で13.1%増加した。
- この回答者が希望する職種は、男性は「情報通信業」、女性は「学術研究、専門・技術サービス業」が多い。

問36 最も希望する業種・職種に就けていない理由

(複数選択)



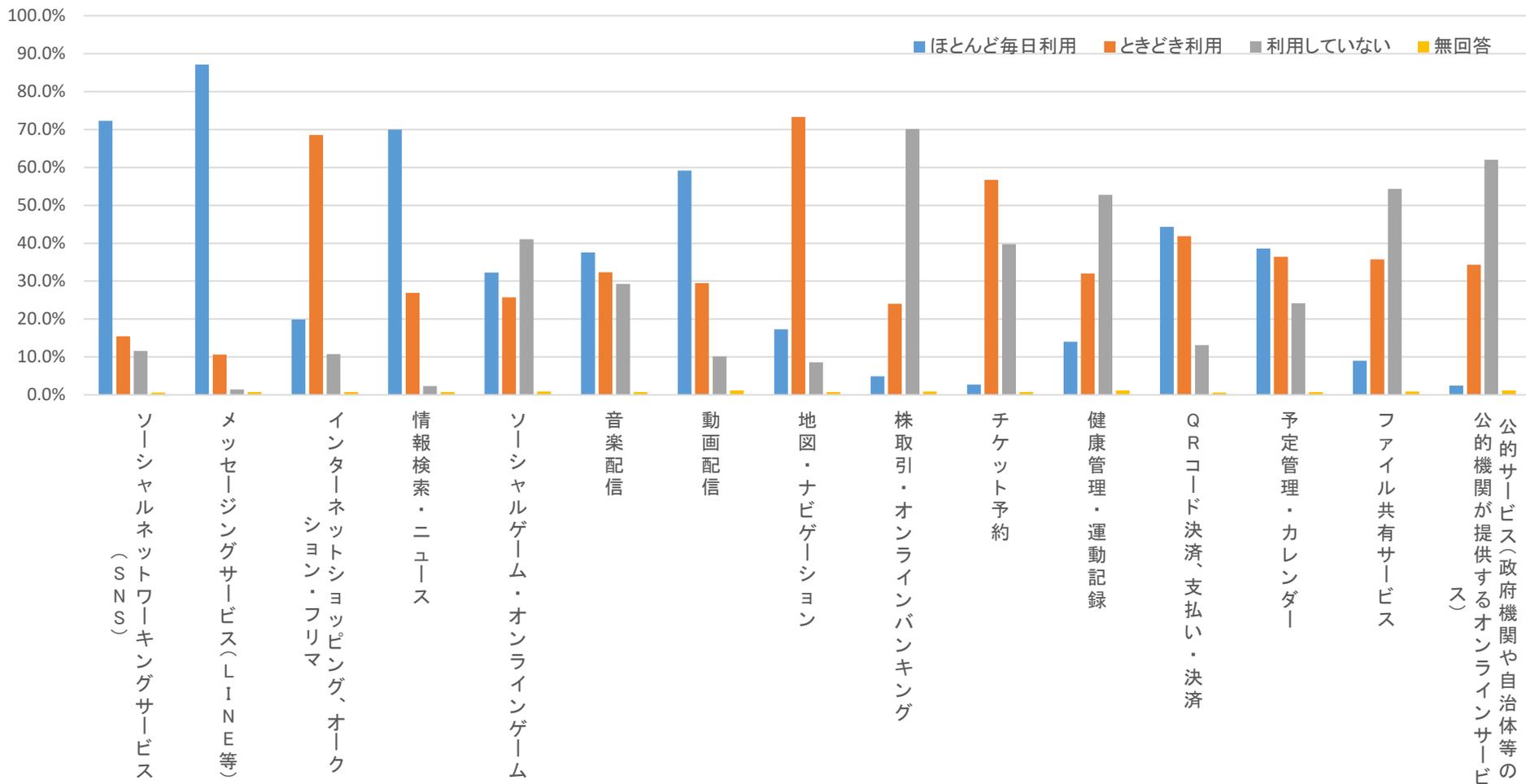
問36 「上越市内で働きたいが、上越市内には希望する業種・職種がない(なかった)」の回答者における、問31希望職種の回答構成比



# デジタル環境に関する回答（インターネットサービスの利用状況）

- SNSやメッセージサービス、情報検索は毎日利用している人が多く、地図・ナビゲーションやショッピングについてはときどき利用している人が多い。
- 株取引・オンラインバンキングや公的サービスは利用者が少ない傾向にある。

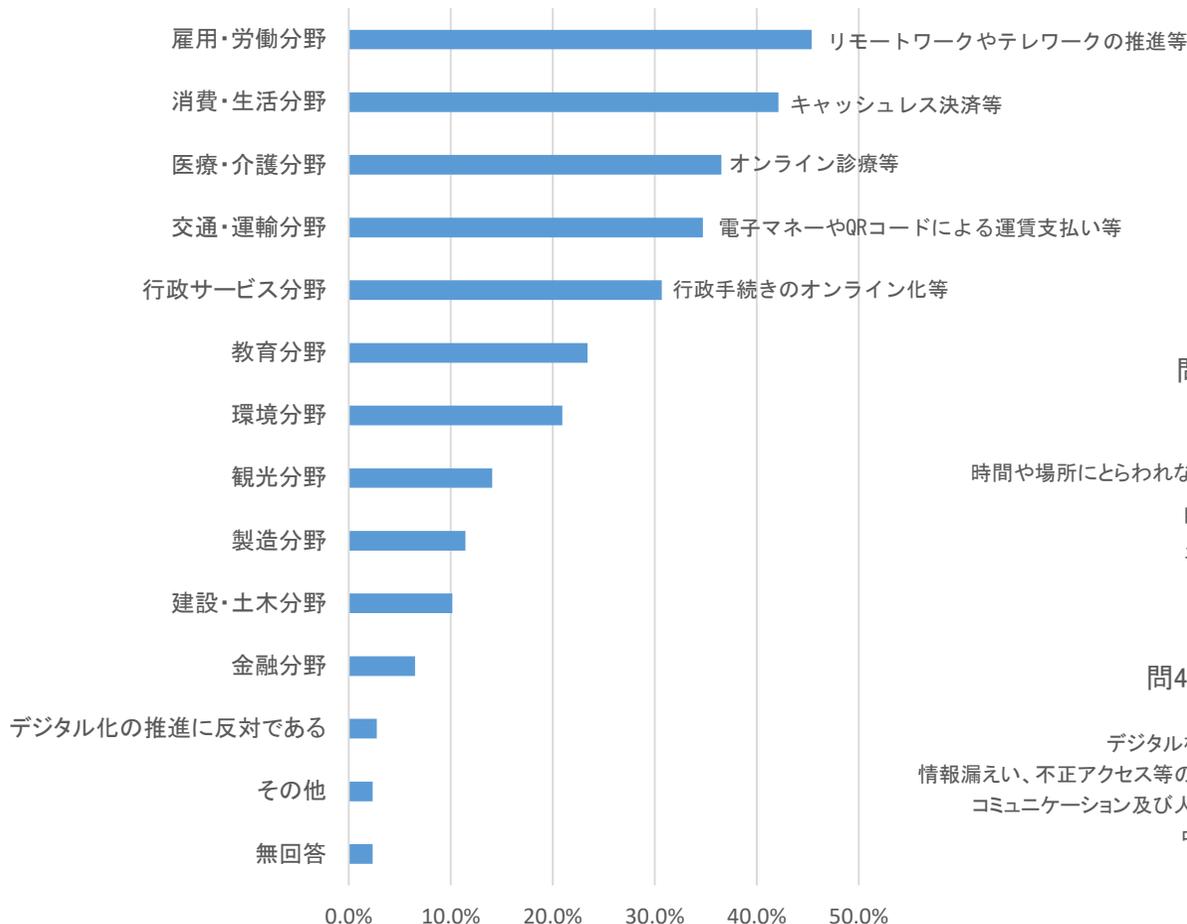
問38 インターネットサービスの利用状況



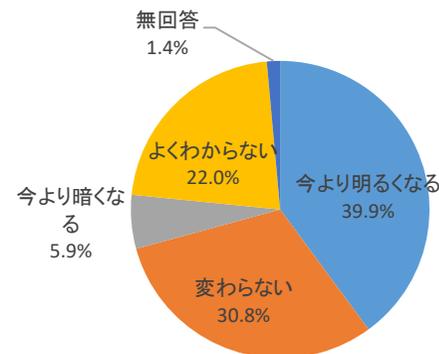
# デジタル環境に関する回答（インターネットサービスの利用状況）

○ デジタル化を望む分野としては、しごとの効率化や働き方の多様化に繋がる「雇用・労働」が最も多く、次いで、普段の生活の利便性向上に繋がる「消費・生活」「医療・介護」「交通・運輸」が多い。また、「行政サービス」についても多い傾向にある。

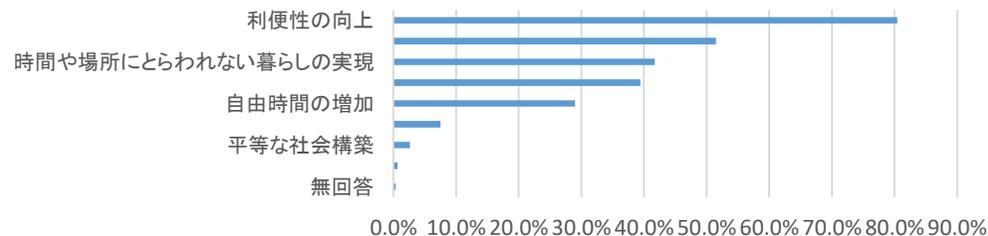
問39 上越市においてどのような分野でデジタル課がもっと進んだ方がよいと思うか（複数選択）



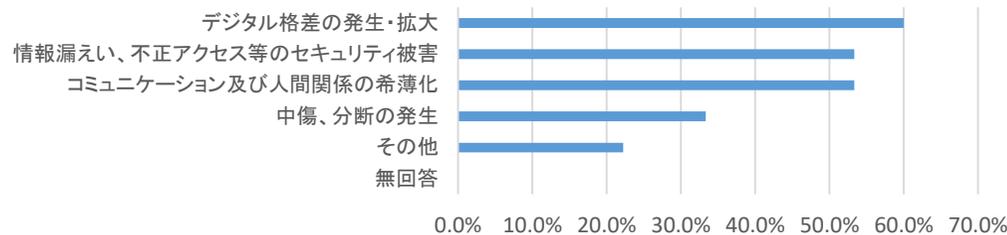
問40 デジタル化が進展することで、上越市は明るくなるか



問40A 「今より明るくなる」と思う理由（複数選択）



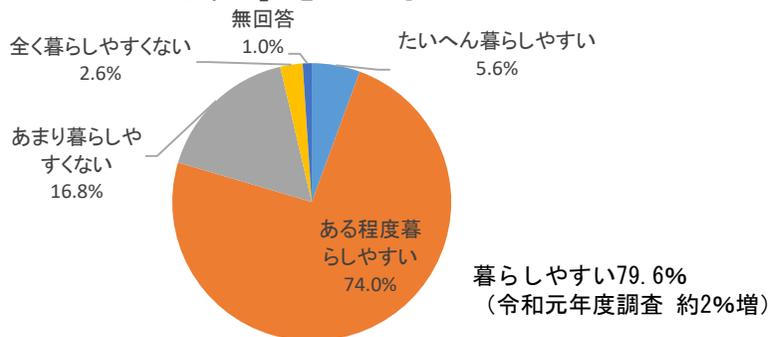
問40B 「今より暗くなる」と思う理由（複数選択）



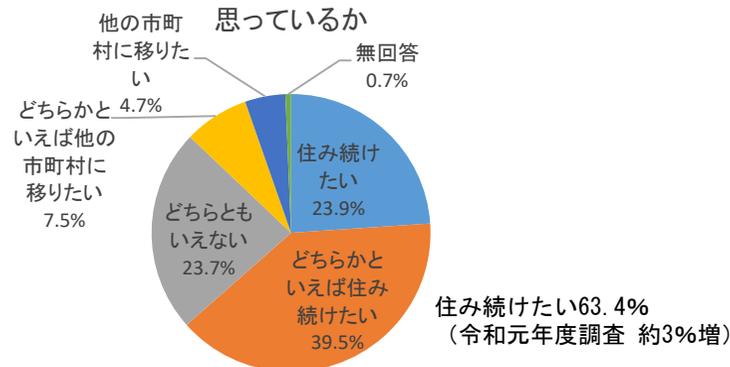
# まちづくりに関する回答

- 上越市での生活を「暮らしやすい」と思っている人が約8割、上越市に「住み続けたい」と思っている人が約6割となっている。
- 上越市での暮らしで気に入っていることでは、「商工業・観光」、「環境」が多い。
- 若者・子育て世代が魅力的なまちになるために、今後、必要なこと・ものでは「商工業・観光」、「教育・文化」が多い。  
若者・子育て世代が住みたい・住み続けたいと思うために重視してほしいことでは、「教育・文化」、「商工業・観光」が多い。

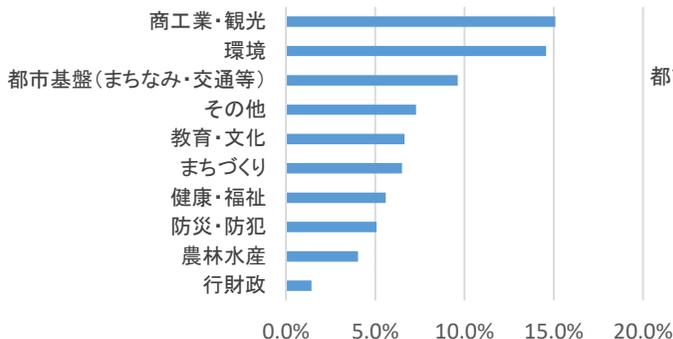
問41 現在の上越市での生活を「暮らしやすい」と思っているか



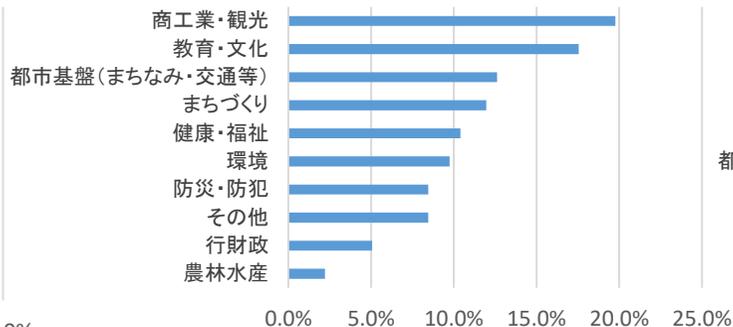
問42 今後も上越市に住み続けたいと思っているか



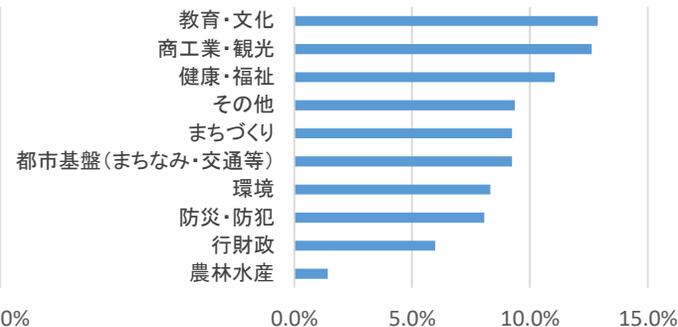
問43① 上越市での暮らしの中で特に気に入っていること(まちの特色や行事・場所など)



問43② 若者・子育て世代にとって、上越市が魅力的なまちになるために、今後、特に必要なこと・もの



問43③ 若者・子育て世代が住みたい・住み続けたいと思うために、特に重視してほしいこと



商工業・観光：高田城址公園（観桜会）  
うみがたり  
環境：自然・風土

商工業・観光：商業施設の充実、遊ぶ場所の充実、  
上越妙高駅周辺の開発  
教育・文化：子育て支援の拡充（保育料・給食費等）  
教育費（授業料）補助の拡充

教育・文化：子育て支援の拡充、教育環境の充実  
商工業・観光：商業施設の充実、遊ぶ場所の充実、  
働く場の充実